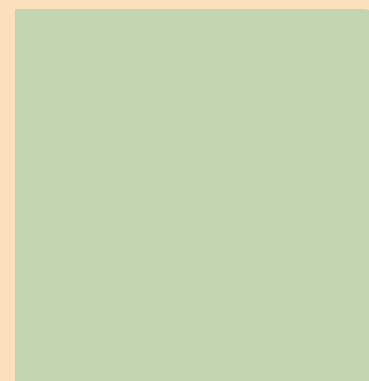




不登校支援プロジェクト

困窮家庭等の不登校中学生の高校進学支援の実践と成功要因分析報告



認定特定非営利活動法人キッズドア

[東京] 〒104-0033 東京都中央区新川 2-16-10 プライムアーバン新川 2階
 TEL : 03-5244-9990 FAX : 03-5244-9991
 [仙台] 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡 3-2-5 サンライズ仙台 2階
 TEL : 022-354-1157 FAX : 022-355-2071

不登校支援プロジェクト

<http://futoukou.kidsdoor-fukko.net/>
 お問い合わせ : labo@kidsdoor.net



Index

- 03 ごあいさつ
- 04 不登校の現状
- 06 不登校支援勉強会について
 - 07 第1回不登校支援勉強会
不登校の実態と支援のあり方について
 - 08 第2回不登校支援勉強会
医療現場から見た不登校支援のあり方について
 - 09 第3回不登校支援勉強会
不登校のお子さんをもつ保護者への支援
 - 10 第4回不登校支援勉強会
不登校生徒対応の現場から
 - 11 第5回不登校支援勉強会
キッズドア不登校支援プロジェクト成果報告会
- 12 成功事例検討会
- 16 ほめ方の工夫で自己肯定感アップ！
3つのほめ方ポイント
- 17 外部評価レポート
- 22 不登校支援プロジェクト調査報告に寄せて

ごあいさつ

この度は、日本財団「困窮家庭等の不登校中学生の高校進学支援の実績と成功要因分析および支援手法開発」でご採択いただき、不登校プロジェクトを実施することができましたことに感謝いたします。

キッズドアでは、2010年より主に困窮世帯を中心に無料学習会や、居場所の運営を行ってまいりましたが、その中でも学校に行きづらい、または学校に行っていない生徒が複数いました。また2011年の東日本大震災を契機に仙台市で学習会を運営しておりますが、そこにも毎年不登校の生徒がいます。私たちは、不登校支援のプロフェッショナルではなく、当初は心理士なども職員がいない中で、手探りで学習支援を行ってきました。

不登校には、大きく2つの課題があります。「学校に行っていない」という状態と、「無料の教育を受けられない」という点です。不登校という名前が示すように、学校に行っていないという点がクローズアップされがちですが、私たちは「教育を受けられない」という状況を放置してしまうことも、とても大きな課題だと考えます。不登校の中学生が、キッズドアの学習会に参加し、無事に高校に進学していくという事例が毎年あります。高校もしっかりと続けて行っている子も多くいます。

今、増え続けている不登校ですが、それは、「学べない」状況のお子さんがたくさんいるということです。些細なきっかけで始まった不登校が、その結果、友達からどんどん遅れている学習を目の当たりにして、さらに学校に行く意欲をなくしてしまう、という負の連鎖につながっているお子さんも少なくないと、私たちは感じています。「不登校」と「不教育」の問題を切り分けて、両面から対応して行くことも必要ではないでしょうか？

東日本大震災の後に、宮城県で不登校が非常に増えたように、子どもの心のストレスは時間を置いて現れてきます。コロナという災害が日本中を襲い、子どもにとって非日常の生活が2年以上続いています。また私たちが支援をするような困窮子育て世帯では、子どもに十分な食事を食べさせられない、水道光熱費や学校の引き落としができないような状況が続いており、心を病んでしまう保護者も増えています。すでに増加している不登校が、さらに増加する可能性も高いでしょう。

さまざまな原因で不登校に陥ってしまう生徒さんが、不教育になり、その後の人生を大きく狂わせないように、不登校の生徒さんへの支援が日本全国で充実することに本プロジェクトが一助となれば幸いです。

最後に、本プロジェクトに大変貴重なアドバイスをくださり、また勉強会の講師も務めていただきました千葉大学子どものこころの発達教育研究センター長の清水栄司先生、また素晴らしいレポートを作成いただいたケイスリー株式会社の金子万里子様、そしてインタビューに答えてくれたキッズドアの学習会を卒業した誇るべき不登校経験者の皆様に心から感謝いたします。

渡辺 由美子

認定NPO法人キッズドア 理事長



不登校の現状

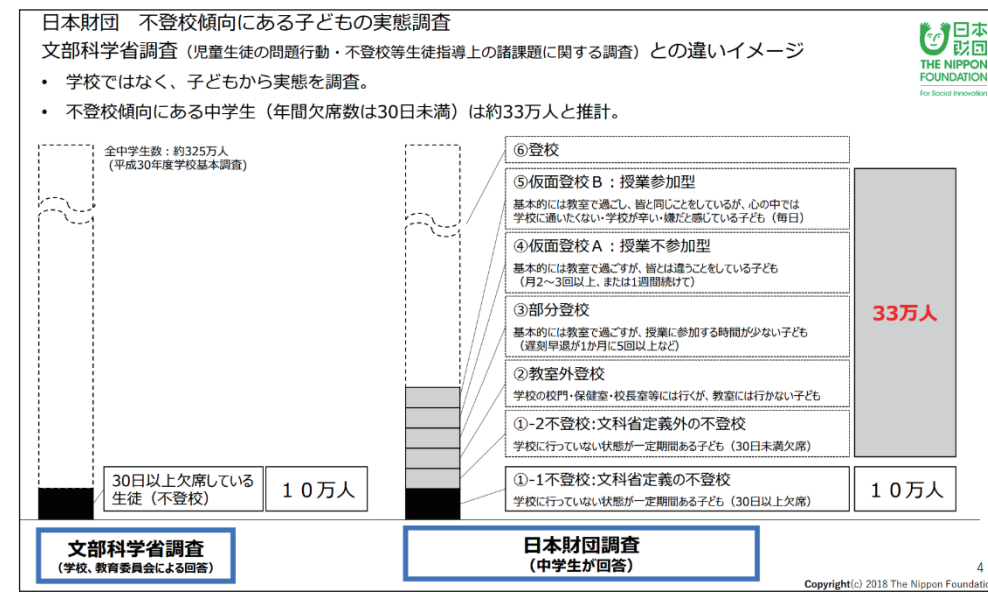
2018年に日本財団が調査した「不登校傾向にある子どもの実態調査（中学生対象）」によると、文部科学省の定義した不登校生徒とは別に、潜在的な不登校生徒はその3倍以上いることが初めて明らかとなりました。（図1）

不登校生徒数は年々増加傾向にあり、文部科学省が毎年発表している小・中学校の不登校生徒数（年間30日以上欠席のある生徒）は、2020年度で過去最多数（196,127人、中学校では1,000人当たり約40人）となりました。（図2）

キッズドアが2021年コロナ禍の困窮子育て家庭向けに独自に実施したアンケートによると、コロナが与えた通学への影響は大きく、「ほとんど行くことができなくなった」「休むようになった」「行き渋りがあった」を合わせると48.5%にもなり、およそ2人に1人が影響を受けたことが分かりました。（図3）

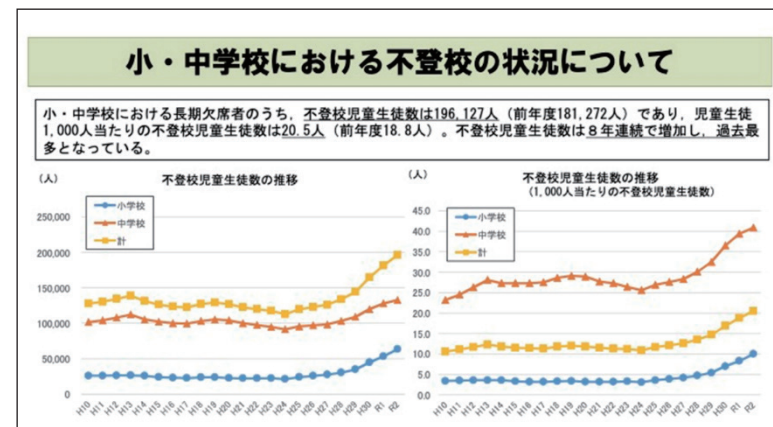
現在、不登校傾向の子どもの場合、中学生の2割弱は無償の教育を満足に受けられていないとも言えるのかもしれない。

図1：不登校傾向にある子どもの実態調査



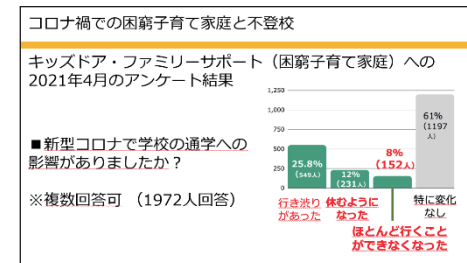
出典：日本財団 不登校傾向にある子どもの実態調査

図2：小・中学校における不登校の状況について



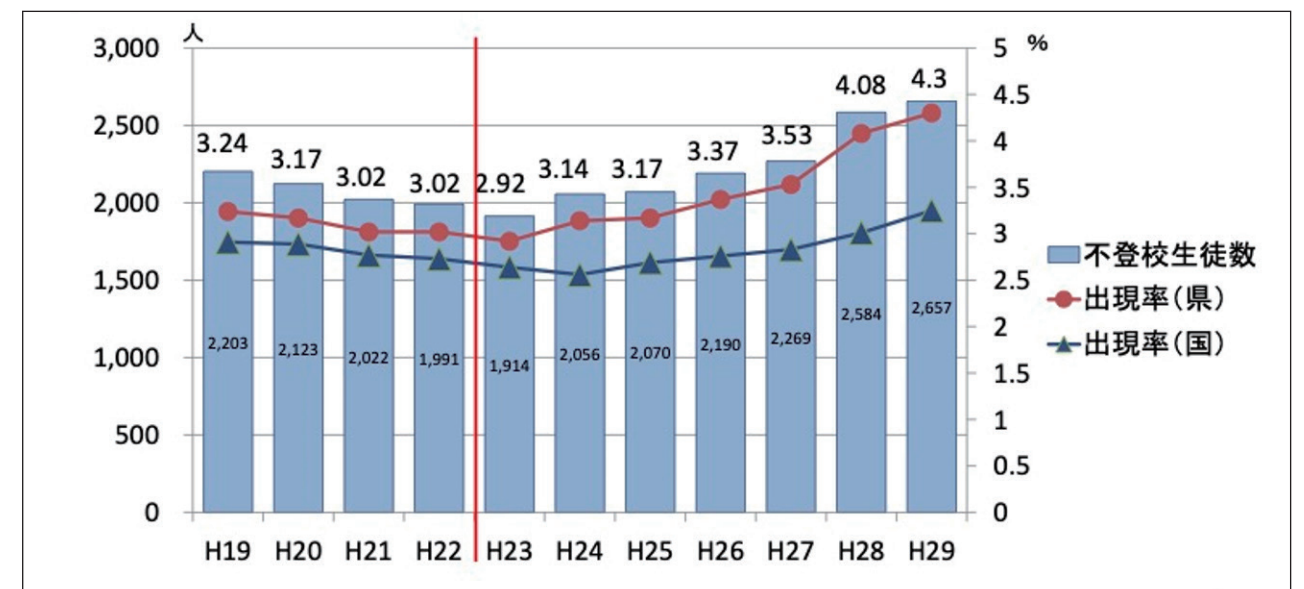
出典：令和2年度大介 文部科学省 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要

図3：コロナ禍での不登校に関するアンケート



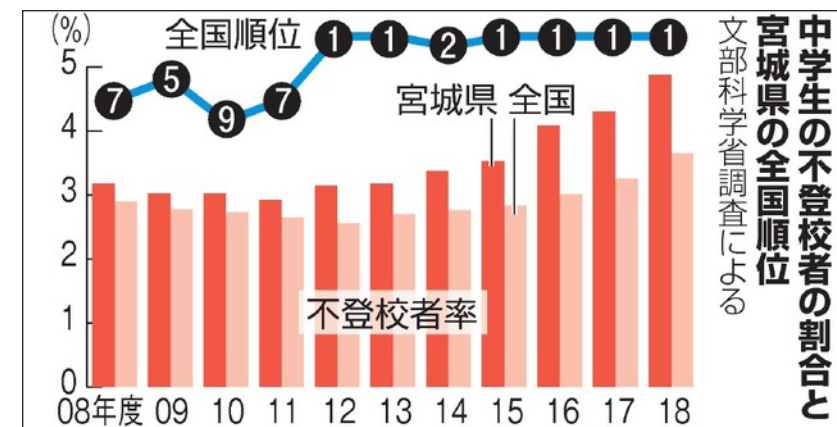
出典：2021年4月 キッズドア・ファミリーサポート（困窮子育て家庭）へのアンケート結果

図4：宮城県の不登校生徒数と全国比較



出典：第8回宮城県総合教育会議 不登校対策について

図5：宮城県の中学生不登校生徒数割合と全国順位



出典：朝日新聞デジタル 2019年11月18日 宮城県内の中学生の不登校率4年連続全国最多

2011年（平成23年）の東日本大震災直後から、宮城県仙台市を拠点に東北の子ども支援を行ってきた私たちが言えるのは、不登校は災害直後よりもしばらく経ってから増え、影響は長く続くということ。宮城県の不登校出現率からも明らかです。（図4）（図5）

宮城県は2012年度から不登校の割合1位が続きましたが（2014年度は2位）、2020年度は新型コロナウイルスによる自粛生活が影響を及ぼしたこともあり全国8位となりました。コロナを災害と捉えると、2020年の一斉休校から2年経ち、今後さらに全国規模で不登校が増える可能性が大きいと言えます。

現在の日本では、不登校になると無償の教育が受けられなくなってしまうのですが、キッズドアに繋がる子どもたちを見ていると、いじめなどの理由が特になくても不登校という子が増えていると感じます。

基礎学力が身につけていない、頼る先がないという状況では、高校にもアクセスできず将来の選択肢が狭まります。高校に入学したとしても、必要単位を修めて卒業し、社会に出ていけるか非常に心配です。不登校の子どもも家庭の経済状況によらず教育を受けられる、そして進学や高校卒業をサポートする社会的支援が早急に必要だと考えます。

不登校支援プロジェクト発足

キッズドアが日本の子ども支援を始めてから15年。無料学習会や居場所の中にも、少なからず不登校生徒の存在がありました。

コロナ渦で不登校が増えている今、拠点や事業ごとにカスタマイズして行っていた支援方法を組織内の職員に広く共有し、不登校の子どもに向けて適切な支援活動ができるよう、また日本全国の子ども支援団体や教育関係者にとっても学びとなるよう、2021年1月にキッズドア不登校支援プロジェクトチームを結成しました（キッズドア内部より12名参加）。

このプロジェクトでは、スタッフ間のスキル向上のための事例検証やノウハウ共有の他、外部講師を招聘したオンライン勉強会を一般向けに広く開催、そして外部評価として卒業生へインタビューを行いこれまでの成功要因分析調査を実施していただきました。

オンライン勉強会

不登校の子どもを支援している団体、医師、親の会など、多方面から講師をお招きし、学びの場を設けました。不登校支援に直接関わる現場の方だけでなく、一般の大学生や保護者の方など、様々な属性の方より沢山のお申し込みをいただきました。

開催スケジュール ※1

第1回	2021年 4月 26日 (月)	14:00～16:00	不登校の実体と支援のあり方
第2回	2021年 9月 4日 (土)	13:00～15:00	医療現場から見た不登校支援のあり方
第3回	2021年 10月 25日 (月)	13:00～15:00	不登校のお子さんをもつ保護者への支援
第4回	2021年 12月 4日 (土)	13:00～15:00	不登校生徒対応の現場から
第5回	2022年 2月 26日 (土)	10:00～12:00	成功事例の要因分析調査報告

勉強会の流れ



※1：勉強会の内容は、HP（裏表紙にURL記載）に掲載しています。

※2：アンケート集計結果は、P20～P21 外部評価レポートに使用しています。

第1回勉強会 参加人数：79人
2021年4月26日（月）14:00～16:00

不登校の実態と支援のあり方について

「多様な学びを共につくる みやぎネットワーク×キッズドア」

概要

「不登校への理解」と「支援団体、支援者同士が学びと連携を図ること」を目的にみやぎネットワークから3団体を招聘して講演とパネルディスカッションを開催。

【講演】

不登校は子どもに合った環境を用意できていない大人の「システムの問題」である。

子どもたちは、住む環境や背景によって、学ぶ機会が大きく左右されてしまう。

選択肢が「学校」しかないと思っている先生・保護者が多いが、他の選択肢もあるということを知ってほしい。みやぎネットワークを通じて個々の団体では微力かもしれないが、まとまったら強いと実感している。常に今の在り方を考えていく必要がある。

【パネルディスカッションテーマ】

- ・「ゲーム依存」について
- ・「子どもの目標設定」に対する考え方
- ・「学校のシステム」について

講師プロフィール



武山 理恵
(ふとうこうカフェinせんだいみやぎ)

2015年、不登校の体験を話す活動と親の会を始める。
現在は「ふとうこうカフェinせんだいみやぎ」で「親の会」「子どもの居場所づくり」の活動中。



高橋 信行
(Social Academy 寺子屋)

東日本大震災後に石巻市内で避難所を運営しながらNPO団体を設立。
2015年からは宮城県大崎市三本木で小中学生を中心に不登校支援を行う。



田中 雅子
(こども∞感ばにー)

2011年3月20日に石巻市に入り、子ども支援を中心に活動。
現在は、子どもの社会的擁護と居場所の必要性を伝える活動に力を注いでいる。

参加者アンケートより

- ・（講師の方々が）東日本大震災後に宮城に来たという人が多くてびっくりした。
- ・子ども自身が考え行動できる環境づくりを大人が整えていくことが大切である、とってくださり納得しました。
- ・子どもの話を聞くというのは当たり前のように、難しいこと。聞き古しているようで、新しい気がしました。
- ・親向け座談会や学習支援に関する支援内容を情報提供したい。

第2回勉強会 参加人数：103人
2021年9月4日(土) 13:00～15:00

医療現場から見た不登校支援のあり方について

概要

医療現場における不登校への取り組みとして「認知行動療法」の紹介の他、不登校予防の目的で学校教育現場にて取り入れられている「勇者の旅プログラム」についてお話いただいた。

また、うつ病、不安症などの精神疾患、発達障害の理解を深め、医療の専門家ではない支援関係者でも実践できるテストや対応方法、書籍などを多数ご紹介いただいた。

講師プロフィール



清水 栄司

千葉大学大学院医学研究院・認知行動生理学・教授
千葉大学医学部附属病院 認知行動療法センター長
千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター長
(大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学研究所兼任教授)

日本認知・行動療法学会副理事長(認定認知行動療法師スーパーバイザー)、
日本不安症学会評議員長(2016年大会長)、不安症・強迫症診療ガイドライン委員長
(日本不安症学会・日本神経精神薬理学会合同)、日本認知療法・認知行動療法学会役員(2009年大会長)、日本脳科学会評議員(2018年大会長)、
著書「認知行動療法のすべてがわかる本」(講談社)監修。著書「自分でできる認知行動療法」
星和書店、「自分で治す社交不安症」法研、「ぐるぐると考えてしまう心のクセのおし方」大和書房、「あれこれ気にしすぎて疲れてしまう人へ 精神科医30年のドクターが教える傷ついた心の完全リセット術」徳間書店など。

参加者アンケートより

- ・話を聞くということに十分な時間をとることの大切さ。何かをしながらではなく、時間を区切ってもその時間はあなたとの時間であることを理解してもらえよう姿勢を持つという支援方法を学びました。
- ・現在対応している不登校の生徒自身が「なんか、教室がいや」「どうしたら 嫌じゃなくなるのかよくわからない」というケースが多く、どう向き合ったら良いかヒントをいただきました。
- ・身近にある、子供たちの初期反応に対して、どう向き合えばよいかという、誰もが悩む最初の一步についての方針がわかりました。
- ・子ども達が不安を持っていることで不安にならないように、自分はもちろんのこと誰にも不安はあって皆それぞれの感情や意見を持って良いと言うことを伝え、不安の対処についても出来る限り伝えていきたいと思います。
- ・学校に登校する という結果を目標にするのではなく学校に行けない時期は、自分をみつめ直し、将来の方針を自分で考える時間だ。という事が、本人にも親にもとても救われる言葉だと思いました。
- ・社交不安などの状態にあり、話すことが苦手なお子さんの場合は、話すことや表現することを求めたり、それができることを肯定的に捉えて関わるのではなく、ただ同じ空間で一緒に時間を過ごすこと、話せない状態も含めたそのままのお子さんの存在を受けとめてあげるような関わり、言葉かけが大切なのだという事をお聴きし、改めて気づき学ばせていただきました。

第3回勉強会 参加人数：86人
2021年10月25日(月) 13:00～15:00

不登校のお子さんをもつ保護者への支援

「親の会」3団体に聞く 保護者の思い

概要

不登校の子どもをもつ保護者の思いやニーズへの理解を深め、支援者と保護者間で情報共有、及び連携しながら支援を行う手立てを考えることを目的として開催。

不登校のお子さんをもつ当事者であり、親の会の運営を通して支援者として多くの保護者の声を聴いてきたパネリスト3名をお招きした。

各団体の設立経緯や活動内容の紹介後にパネルディスカッションを開催。

【パネルディスカッションテーマ】

- ・親の会へのニーズ、参加者はどんなことを求めているのか
- ・不登校の子どもを持つ保護者が求めている情報や、情報収集の方法について
- ・子どもが学校へ行かなくなった時と、学校を休ませるといった決断をした時の心情
- ・不登校の子どもたちにどのような居場所が必要か
- ・不登校支援者に求めること。どのような関わりをしてほしいか

講師プロフィール

中村 広伸
(フリースクールネモ
不登校お父さんの会)

2020年にフリースクールネモの親の会に参加。2021年に同スクールで「不登校お父さんの会」を立ち上げ、活動中。

関谷 陽子
(未来地図オンライン
親の会 mirai café)

不登校の子どもを持つ保護者で立ち上げた情報発信サイト「未来地図」を運営。オンライン親の会「mirai café」を設立し、活動中。

横地 美由紀
(フリースペースコスモ
不登校OYAの会)

2019年にフリースペースコスモの親の会「コスモ不登校OYAの会」に参加。現在は同会の世話人として活動中。

参加者アンケートより

- ・保護者も生徒も、特に不登校初期には焦りや不安が大きくなるため、保護者への理解や労りの気持ちも支援においては大切だと感じた。保護者との距離が近くなりすぎると、生徒側に不信感が生じる可能性もあると思うので、そのバランスは常に考えつつ、かかわっていく必要があると感じた。
- ・給食費の止め方など、事務手続きの面での情報提供を保護者は欲していることを新たに知る機会となった。
- ・学校という場所に拘らずに過ごしていくという話を聞いて、我が子に合う過ごし方を探していこうと思った。
- ・親の会などから情報を得て、子どもの居場所を整えたり、精神的な不安の共有ができるのは有効と思った。

第4回勉強会 参加人数：49人
2021年12月4日(土) 13:00～15:00

不登校生徒対応の現場から どのように考え、どのように対応したのか

概要

日頃から不登校生徒の対応を行っている団体様の事例を伺い、「不登校」に関する理解を深めると同時に、支援者間の意見交換などを通して新たな知見を得ることを目指し、首都圏で活動されている2団体の現場責任者の方を招聘した。

各団体の設立経緯や活動内容の紹介後にパネルディスカッションを開催。

【パネルディスカッションテーマ】

- ・「不登校支援」において一番大切にされていること、日頃心がけていること
- ・保護者の方々との関係や保護者に対する支援において気を付けていること
- ・学校との連携について気を付けていること

講師プロフィール

武笠 隼士
(ダイバーシティ工房)

「地域の学び舎プラットフォーム」責任者。社会福祉士。2016年に入職後、千葉県中核地域生活支援センターに相談員として出向。無料学習支援や不登校の放課後デイサービス事業の立ち上げ等を経て現職。

本田 紗菜
(文化学習協同ネットワーク
フリースペース・コスモ)

「フリースペース・コスモ」責任者。弟の不登校を経験したことを機に、不登校となった本人と本人を取り巻く環境等に興味を持ち、大学で福祉を専攻。2013年大学卒業後、入職。若者サポートステーション事業との兼務を経て、今年度より現職。

参加者アンケートより

- ・現場の話聞く機会がもらえて大いにためになった。こうした取り組みや働きを広げている方々の存在を心強く思います。居場所にいる一人ひとりの成長やより良い出会いを願っています。
- ・不登校児童が増えていてどう対応したら良いかなやんでいた。それぞれの団体がしているやり方がどれだけ有効か試しながら、改善改良しながら自分たちなりの取り組みにしていければと思った。
- ・一般的な社会のルートでは対応できない、個性や多様性が広がっており、オーダーメイドの支援や援助が求められていると感じた。講師の方々や団体職員の方々のような存在が、様々な事情や状況を抱えるご家庭や子どもたちにとって、とても救いになるのだろうと思った。
- ・「もう少しできる」と感じるタイミング” “そこを逃さない” が大切だと感じた。それまでは笹船に二人で乗って、ゆらゆらと河を下るように寄り添っていき、“このタイミングでギアをあげる感じ”に感動した。

第5回勉強会 参加人数：113人
2022年2月26日(土) 10:00～12:00

キッズドア不登校支援プロジェクト成果報告会 成功事例の要因分析調査報告

概要

不登校生徒数は東日本大震災後に宮城県において増加し、全国ワースト1位となった。不登校は大きな災害のあと、数年後に増加する傾向がある。コロナを災害と捉えると、今後は不登校生徒数が全国的に増加すると見込まれる。

キッズドアでは2021年1月、不登校支援プロジェクトチームを結成し、チームメンバーが毎月持ち回りで成功事例検討会を開催(全9回)する他、外部講師を招聘し不登校支援勉強会(全5回)を企画開催してきた。

また、インパクト評価に定評のあるケイスリー株式会社に成功事例の要因分析調査を依頼。成功事例と考えられる生徒9名(中学時代にキッズドアの支援を受け高校へ進学、その後充実した高校生活を送っている)にインタビューを実施し、どのような環境、関わり方が、子どもたちに良い変化を与えたのか成功要因を分析した結果をご報告いただいた。

講師プロフィール



金子 万里子(ケイスリー株式会社)

大学卒業後、自動車メーカー商社を経て、仏語圏アフリカを地域的専門として中小企業振興並びに地域経済振興プロジェクトの組成・実施・管理・評価に多数従事(例：ルワンダ地場企業振興、コートジボワール製造業分野中小企業振興政策立案、等)。

ケイスリー株式会社に参画後、企業や行政事業における社会的インパクト・マネジメント推進事業や社会的インパクト評価に複数携わる。

参加者アンケートより

- ・不登校の生徒を支援するうえで知っておくべきことを学べることを期待して参加した。
- ・不登校の子どもが、やる気を示し、人と接することに意欲的になる「きっかけ」にはどのようなものがあるか、具体的に知りたかった。
- ・不登校児が増えるのは、震災やコロナなどが起きたすぐではなく時間を置いて長期的に影響が出ること。これに対して社会が気づかない、見えないという現状。
- ・アウトリーチの方法として、いつでもどうぞではなく、説明会やイベントをやること。学習について、やりたいときにやりたいこと、という姿勢に寄り添うこと。ジャッジマインドを持たないこと。
- ・子どもたちからのフィードバックを見て、とても前向きな結果が出ていると思った。
- ・丁寧な支援が効果的であることをインタビュー分析から追体験できた。

成功事例検討会

キッズドアの学習支援事業は、不登校支援に特化しているわけではなく、拠点ごと様々な学齢・背景の子どもたちが利用しています。

高校受験を目指した学習会、英語に特化した学習会、安心して過ごせる居場所事業など、様々な形態がある中で、私たちはプロジェクトチームを結成し、不登校の子どもと向き合うことで得られた知見、ノウハウをお互いに共有しスキルアップすることを目的に「成功事例検討会」を開催してきました。

▶ **目的** 拠点ごとの特長を紹介、特徴的な生徒の事例紹介、ノウハウ蓄積
スキル向上のための積極的な意見交換

▶ **参加メンバー** キッズドア不登校支援プロジェクトメンバー

▶ **開催スケジュール（全9回）**

第1回	2021年2月17日(水) 15:00～17:00	第6回	2021年8月27日(金) 14:30～16:00
第2回	2021年3月19日(金) 15:30～17:30	第7回	2021年9月23日(木) 13:00～15:00
第3回	2021年4月23日(金) 15:30～17:30	第8回	2021年10月29日(金) 15:00～16:30
第4回	2021年5月20日(水) 15:00～16:30	第9回	2021年11月26日(金) 15:30～17:00
第5回	2021年6月30日(水) 14:30～16:00		

キッズドアを利用している不登校生徒に良い変化が表れた事例と、
上手くいかなかった事例もあわせて紹介します。

事例紹介

事例紹介1

家にも学校にも居場所がない

広汎性発達障害があり、学校生活になじめず、小5から不登校（保健室登校）となり、中学1年から利用を始めました。最初はコミュニケーションがとりにくいので、学校とは違う環境にすることを心がけ居心地の良い場所作り＜信頼関係を築くこと＞を最優先に努めました。保護者との連絡も欠かさず密にしていきました。

中3になったばかりのころ、担当スタッフから『Aさんが、最近は教室に入る前に、控室に顔を出して挨拶するようになりました！』と嬉しそうに報告がありました。信頼関係ができたことで、受験についても前向きになり、苦手な教科にも取り組むようになりました。

現在は、休むことなく高校に通っています。専門的な学習にも取り組めていて、将来の目標もできたようです。中学卒業後も、キッズドアの英語クラスなどに登録し、その後も関わりが続いています。

スタッフが本当に親身になって、Aさんのために心を砕き、その気持ちが本人にも伝わり、その心にある堅い殻を破ることができました。信頼できる大人との出会いが与える影響は大きいと感じています。

事例紹介2

自分らしく過ごせる居場所支援

小学校卒業後、友人トラブルをきっかけに人を信じることができなくなり、中学入学後に学校を休むようになりました。その頃から精神科クリニックに通院し、服薬。最初は、「自分のことを知ってほしい」という気持ち強い印象でしたが、スタッフや他の生徒たちと一緒に遊ぶなかで同年代の子と少しずつ言葉を交わすようになり、自ら関わりを持って活動する姿が見られるようになりました。自由に体を動かすことで自然な笑顔がたくさん見られるようにもなりました。

以前は「新しい人がいると緊張する」「人が多いところが苦手」と話していましたが、新しい生徒がいる日に「面白かった」という感想が聞かれるようになりました。また、3年生になると受験生らしい発言が増え、自ら苦手な数学や英語の課題を持参し意欲的に取り組み「新しい環境に慣れたい」「自分を変えたい」と話すようになりました。

信頼関係のあるスタッフが遊びに混ざることによって、Bさんにとってこの場所が“安全基地”となり「やってみよう」「他の子と関わってみよう」の一步に繋がったのだと思います。

事例紹介3

居場所支援で学習意欲が向上

学校へはたまにテストを受けに行くという状況で、家では昼夜逆転の生活を送っていたCさん。

初めのうちは登録後も出席が安定せず、スタッフとのコミュニケーション量も多くありませんでしたが、居場所（勉強、食事、アクティビティ）で過ごすうちに、同年代の生徒とコミュニケーションを取るようになり、女性スタッフへの拒否感も薄れていきました。

高校入試前になると、ほぼ毎日来室して入試対策を進めていました。学校の授業を受けていない期間が長くても習熟度は高く、学習意欲も高い状態でした。高校進学後は、イベントへ参加するなど他の生徒との交流もできています。現在、高校は休まず出席し、勉強も継続して真面目に取り組む、友人と過ごす時間も大切に過ごしているようです。

干渉されすぎることなく過ごせる環境で家族以外との関わりを徐々に増やしていくことができたこと、本人の学習や進学に対する意欲が継続できたことで、高校からのリスタートを切ることができました。

事例紹介 4 自分のペースにあう環境が必要だった

ASD、ADHDの診断があり、思ったことをすぐに行動に移す、集団に合わせるのが苦手等の特性があり、学校のペースで学習や集団生活をするのは難しかったようです。人との関わりを求めており「友達を作りたい」とよく話していました。コミュニケーションが一方通行になりやすく、『相手の話を聴く』ことが課題。また勉強への苦手意識も強い状態でした。

Dさんと他の生徒が話す場で、スタッフが仲介し「共通の話題」から話すきっかけを提供していくと、次第に相手に対して質問できるようになりました。また勉強方法はDさんの特性にあわせて「問題を区切って解く」といった細かな対応を継続していくことで、自分で取り組み、目標までやりきる力がついていきました。

現在は、わからない問題に対して粘り強く取り組める時間が増え、相手へ歩み寄るコミュニケーションができるようになりました。「友達を作りたい」気持ちから高校進学を強く希望し適応指導教室への通所も始めています。

事例紹介 5 親の期待にギャップを抱える中学3年生

中学2年生の3学期頃、友人関係のトラブルから孤立気味になり、朝起きられない日が増え、次第に登校頻度が減りました。

居場所では、スタッフの話しかけには良く応え、ゲーム、漫画等詳しく説明してくれましたが、保護者からの期待が大きく、そのプレッシャーのせいか学習にはなかなか向き合えませんでした。ボードゲーム等のアクティビティでは、周りを見て素早くサポートするなどして周囲から感謝されるのが度々ありました。このことが本人へ良い影響を与えたようです。徐々に、保護者や学校に対する気持ちを話してくれることが増え、今ではどのスタッフや生徒とも他愛なく話をするようになりました。今まで、褒められる体験が少なく自分の行動に自信が持てなかったのですが、長所を意識的に伝え、褒められる体験が増えたことから次第に自信がついてきたようです。

また、進路について保護者と折り合いがつかないことをスタッフに相談したことで、自分の気持ちの整理もできたようです。保護者の意見を受け入れ志望校が決まったことにより、少しずつ学習にも向き合えるようになりました。

事例紹介 6 不登校に理由なんて、ない。

中学1年生の夏頃から不登校になりました。明確なきっかけや理由はなく、不登校の生徒がたくさんいる中学校で、親や先生からも特に何も言われずに、結局3年間、学校に行きませんでした。

不登校生活に飽きていたせいか、学習会では楽しそうに過ごしていました。ただ生活習慣が乱れているので、指定した学習時間には来ず、勉強も皆無。Fさんにとって学習会は勉強する場所というより、誰かと話せる自分の居場所というような感じでした。

そんなFさんも高校に進学。2年生になってからは学校に休まず行くようになり、テスト前も自ら勉強するようになりました。変わった理由について尋ねると「キッズドアの学習会で色々な人と会って色々な情報に触れて楽しかった。学校も同じだと気がついた。楽しくなければ自分で楽しくすればよいと思った」と答えてくれました。現在は、単位制の高校を予定通り4年で卒業することができそうです。学習会を通じて温かく見守る環境がずっと途切れることなくあったこと。「勉強教えようか」と声は掛けるけれど、強制するわけではない。学校に行かない理由もしっかりと話を聞く。そういった距離感が良かったのだと思います。

事例紹介 7 子どもの話を真に受け、大人が焦り過ぎてしまった

Gさん：

中2の夏休み明けから不登校に。キッズドアに来た当初は、高校受験に向けて意欲があるように見受けられ、自宅でも学習していると話していました。アメリカでスポーツトレーナーの資格を取りたいと夢を語ってくれたこともあり、まずは高校進学に向けて頑張ろう！と最初から学習中心の働きかけをしました。英語が得意というところから英検4級受験も勧めましたが、次第に学習会から足が遠のくように。後日「何気なく口にした話を大人が本気にしてレールを敷かれたのが嫌だった」と言われてしまいました。

Hさん：

保護者への不満を口にしていたHさん。母親との面談で、普段の様子をお伝えしたところ、後日父親から退会させたいと連絡が入りました。子どもから発せられる不満の中には、悪意を持った嘘ではないものの、子の都合で語っていることも多く実際とは異なる場合もあります。親に報告すると親の意見や考えにより家族関係が悪化し、子どもの居場所を奪ってしまう要因にもなることがあります。「中立的な立場」の難しさを感じた出来事でした。

ほめ方の一工夫で自己肯定感アップ！3つのほめ方ポイント

～キッズドアスタッフも実践しています～

ポイント1

▶「ほめる」意味と目的を理解しよう！

①自己理解の役割 ②自己肯定感の向上

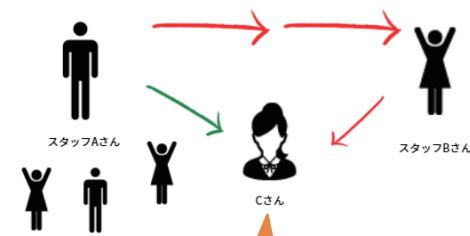
- ① ②
- ・自分のいいところを認識できる
- ・進路選択の際のヒントになる
- ・ポジティブな言葉をかけ続ける
- ・自分の変化や成長に気づいてくれる人がいる安心感を与える



ポイント2

▶「ほめる」タイミングを意識してみよう！

- ① みんなで集まっている時にほめる
- ② 帰るタイミングで再度ほめる
- ③ 別日に違う人を介してほめる



Cさんが褒められる回数を意識的に増やす

ポイント3

▶「ほめる」アイテムを使ってみよう！

- ① 賞状など頑張ったことを掲示
 - ・初めて学習会に来た人に褒められるきっかけになる
 - ・時間が経っても、自分のいい所を再認識できる
- ② 振り返り記録表（修了式）
 - ・個人の成長を振り返り次のステージへと送り出す
- ③ 振り返りムービー（修了式）
 - ・学習会全体での成長を振り返り次のステージへと送り出す



番外編

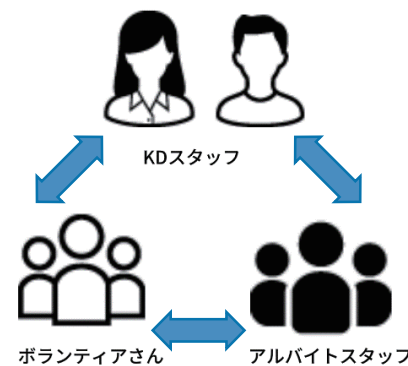
▶「ほめる」のは子どもだけ？

① チームメンバーの得意を共有

- ・その人の「得意」を周りが認識することで役割をプラスできる

② 心理的安全性の確保

- ・子どもだけでなく、大人も認められる場・フラットな場であることを提示できる



外部評価レポート

今回「不登校支援」における有効性を確認するため、ケイスリー株式会社様へ成功事例要因分析並びに勉強会成果評価を依頼しました。実施にあたっては、実際にキッズドアで不登校支援を受け卒業した子どもとキッズドアの現場スタッフへインタビューを行い、事業の有効性を図りました。また、一般からの参加を募っている参加アンケートから社会的なニーズの掘削、事業改善につながる手法の獲得を行うことができました。報告レポートより一部を抜粋して掲載します。

※ケイスリー株式会社様からの報告レポート（全）はHPをご覧ください。

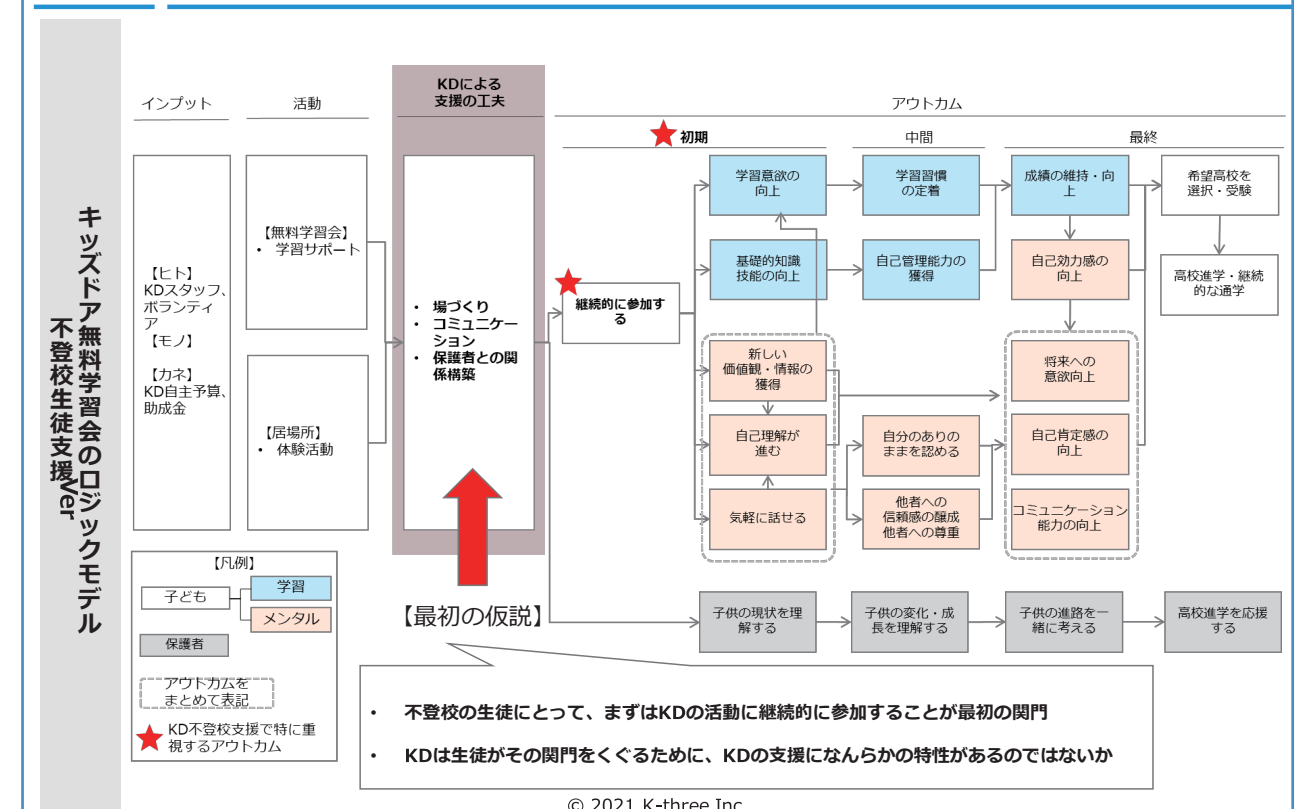
ケイスリー株式会社 金子 万里子 様

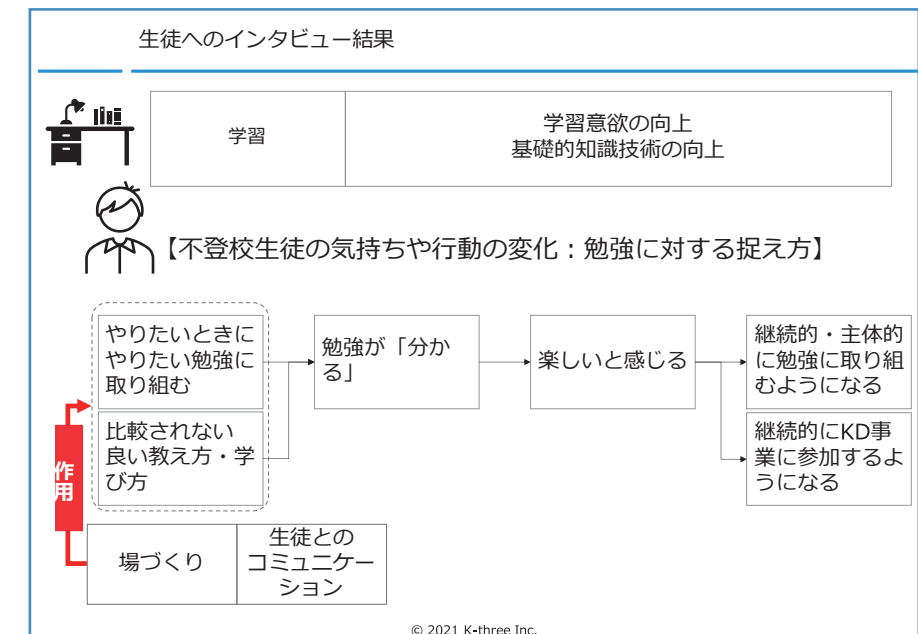
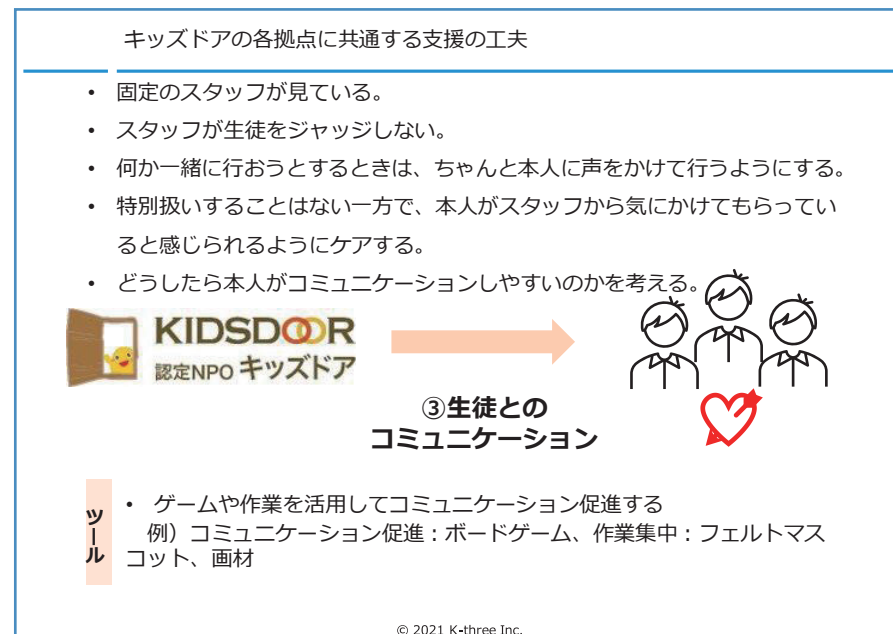
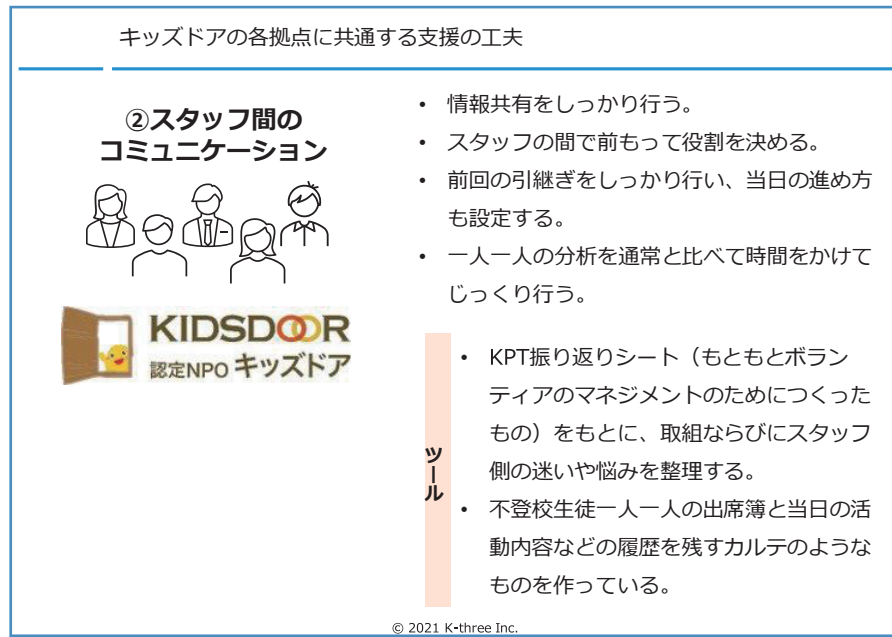
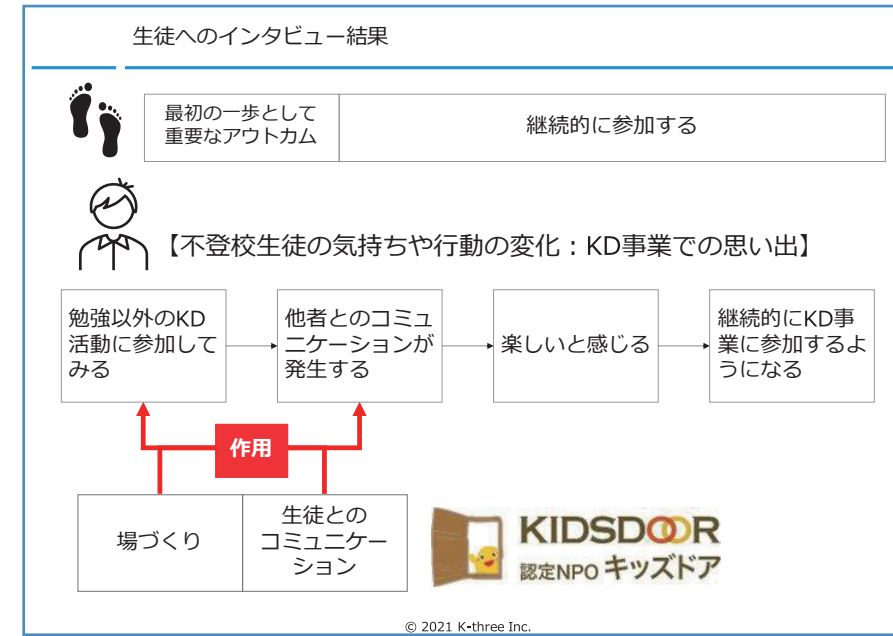
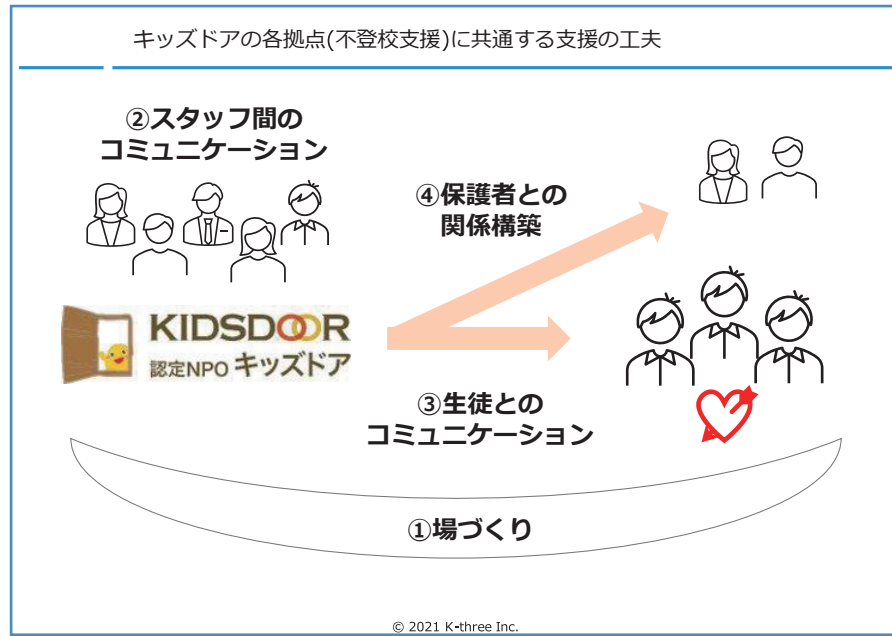


大学卒業後、自動車メーカー商社を経て、仏語圏アフリカを地域的専門として中小企業振興並びに地域経済振興プロジェクトの組成・実施・管理・評価に多数従事。ケイスリー株式会社に参画後、企業や行政事業における社会的インパクト・マネジメント推進事業や社会的インパクト評価に複数携わる。パリ政治学院（Sciences Po）公共政策修士課程修了



キッズドアの各拠点(不登校支援)に共通する支援の工夫





まとめ

今後支援が必要になったときにそれはもちろん戻ってきたいけれど、今まで支援を受けてきたことというのはあくまでも過去のこと、これからは自立していきたいと思っていて、この場所にすがってばかりはよくないと思うから、何かあったら頼りたいと思うけど、まずは自分で頑張ります、と言いたい。

中学2年生から不登校で、同年代の子と話す機会がほとんどなく、高校に行ってもうまくやっていけるか不安に思っていたが、KDで勉強したり同年代の友達とコミュニケーションをとったりする経験を積み重ねていたので、高校に上がったときに不安感がなくなって、これであればうまくやっていけると思えるようになった。

自分から勉強することが身についたし、自分から勉強しようと思うようになった。中学校に行っていなかったため、高校では挽回したいと思っていた。「やればできる」「とりあえずやっておこう」という意識ができた。人の前にできることもできるようになり、今高校の寮の寮長をやっている。せっかく高校に来たのだからやれることをやっておきたい。ゲームばかりやっていないで、逃げない、という意識で対応している。

自信

KDに来る前は、学校に行かない時は家に引きこもっていて、人と話す機会が圧倒的に少なかった。久しぶりに中学校に行っても、友達に話すこともなかった。しかし、KDに行っているいろいろな人と話して刺激を受けて、散歩にでて、梅が咲いていたよ、と話せるようになって、そこからちよくちよく中学校にも行くようになったりした。

© 2021 K-three Inc.

アンケート結果と分析 勉強会への期待に対する満足度

- 勉強会に対する期待は主に、不登校生徒との関わり方、活動者の経験、親の関わり方、具体的な支援方法、支援現場の状況、に分類される。
- 毎回参加者の7割以上が、勉強会で知りたかったことや得たかった情報を得ることが、8割以上できたと回答している。

勉強会への期待

【不登校生徒との関わり方】自分が関わる際に不登校の生徒への関わり方、またそれ以外の生徒への関わり方の考え方の理解をしたいと思いました。

【活動者の経験】不登校に関する活動をする方々の考えを知りたかった。

【親の関わり方】子どもの支援で、親ができることは何かあるのを知りたかった。

【具体的な支援方法】認知療法につき知りたかった。

【支援現場の状況】実際の現場の様子や事例、対応の仕方や考え方を学ぶこと。

勉強会に参加して知りたかったことを学べたり、得たかった情報はどのくらい得ることができましたか。

© 2021 K-three Inc.

不登校支援勉強会アンケート内容

以下の内容で、勉強会開催後に参加者に対してアンケートを実施した。

質問項目	選択肢	回答必須		
基本情報	ご所属を教えてください。	子ども支援関係の方/子どもを持つ保護者の方/学生/キッズドアスタッフ/キッズドアアルバイト/キッズドアボランティア/その他	●	
	ご自身が活動されている都道府県を教えてください。	短文自由記述	●	
	今回の勉強会にどのような期待を持って参加されましたか？	短文自由記述	●	
知りたかったことを学ぶ	勉強会に参加して知りたかったことを学べたり、得たかった情報はどのくらい得ることができましたか？	全く得られなかった/3割程度/8割方得られた/十分得られた	●	
	知りたかったことや得たかった情報はプログラムのどのパートから得ることができましたか？	各回内容による	●	
学びの工程	勉強会で共有された支援方法のうち、新たに知ったものがありましたか？	はい/いいえ	●	
	不登校生徒への支援方法	「はい」と回答した方は、どの団体の支援内容でしたか？	各回内容による	
	「はい」と回答した方は、具体的にどのような支援方法を新たに知りましたか？	短文自由記述	●	
	不登校生徒の支援団体	勉強会で新たに知った不登校生徒の支援団体はありましたか？	はい/いいえ	●
	内容が有効だと思う	勉強会で紹介された支援内容は、不登校生徒への支援としてどの程度有効と感じましたか？	全く有効ではない/あまり有効ではない/まあまあ有効だと思う/非常に有効	●
	自分の組織による支援での活用可能性を検討する	上記のように回答された理由は何ですか？	短文自由記述	
	もっと学びたいと思う	「まあまあ有効だと思う」「非常に有効」と回答された方は、どの内容が有効と思われましたか？	短文自由記述	
		勉強会で紹介された支援内容をあなたの組織でも活用してみたいと思いませんか？	はい/いいえ	●
		「はい」と回答した方は、どのような内容を活用しようと思いませんか？	短文自由記述	
		次回もこのような機会があれば参加したいと思いますか？	はい/いいえ	●

アンケート結果と分析 支援方法について新たに知った度合い

- 毎回参加者の5割以上が、勉強会で新たな支援方法について知ったと回答している。
- 第4回のみ、勉強会で新たな支援方法を知った参加者の割合が他の回に比べて低いが、参加者は7割弱が子ども支援関係の方々であり、支援方法自体については元々知っていた可能性がある。

勉強会で共有された支援方法のうち、新たに知ったものはありましたか。

アンケート結果と分析

- キッズドアが不登校支援事業を実施している東北地域と関東地域の都道府県からの参加が多い。
- キッズドアの事業実施地域以外の地域で活動または居住している方々からの参加もあった。

地方区分	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
北海道・東北	北海道、岩手県、宮城県、山形県	北海道、宮城県、山形県	北海道、宮城県、山形県	北海道、青森県、宮城県	北海道、宮城県
関東	東京都、千葉県	東京都、千葉県、茨城県、神奈川県、栃木県	東京都、千葉県、茨城県、埼玉県	東京都、千葉県、茨城県、神奈川県	東京都、千葉県、茨城県、埼玉県、神奈川県
中部		長野県、愛知県	新潟県、石川県、愛知県	長野県、富山県	長野県、京都府
近畿		奈良県	大阪府		大阪府、兵庫県
中国		山口県、鳥取県	山口県	山口県、鳥取県	
四国					徳島県
九州・沖縄	大分県、熊本県	大分県、鹿児島県	鹿児島県、熊本県	鹿児島県	大分県、熊本県、長崎県、福岡県、佐賀県
海外		ベトナム			オーストラリア

アンケート結果と分析 勉強会で紹介された支援内容の有効性

- 毎回参加者の8割以上が、勉強会で紹介された支援内容の有効性について、「非常に有効」または「まあまあ有効だと思う」と回答している。

勉強会で紹介された支援内容は、不登校生徒への支援としてどの程度有効と感じましたか。

不登校支援プロジェクト調査報告に寄せて

清水 栄司

(千葉大学子どものこころの発達教育研究センター長)

キッズドアは、子どもの貧困の問題に対して、無料学習会の運営、居場所支援を行っている。今回、特に、不登校中学生の支援プロジェクトの効果の検討がなされた。過去にキッズドアの無料学習会に参加し、支援を受けながら高校受験をして合格し、現在継続的に高校に通学している生徒9名に、当時を知るキッズドアのスタッフ（職員）が最低1名参加する形での対面インタビュー調査の形式である。

一般的な不登校の要因として、①学校の教員との関係の問題、②いじめの問題、③決まりや校則による苦しさ、④進路の悩み、⑤学業の問題などが知られている。

今回のキッズドアのスタッフへのインタビュー調査から、無料学習会では、スタッフが上記の不登校の要因を十分に把握し、そのような問題が起こらないように、十分な配慮を行っていたことが明らかになった。すなわち、「場づくり」として、「学校と同じことをやらない、細かいルールを作らない、時間を縛らない、時間割を作らず、自分がやりたいことをやり、寄り添う」「限られた人数の環境を作る」あるいは、「生徒とのコミュニケーション」として、「スタッフが生徒をジャッジしない」「特別扱いすることはない一方で、本人がスタッフから気にかけてもらっていると感ぜられるようにケアする」「どうしたら本人がコミュニケーションしやすいのかを考える」、「ゲームや作業を活用してコミュニケーション促進する」などに見られる。心理療法で重視される「傾聴、受容、共感」のような理想的なコミュニケーションの形がそこにあったようである。

不登校生徒たちにとって、学校が「勉強するための集団主義の固い場」とすれば、キッズドアは「勉強するための個人主義のやわらかい（柔軟な）場」としてとらえられたようである。考え方の柔軟性は、文部科学省の学習指導要領で使われる「生きる力」につながる。

同様に、生徒へのインタビュー調査からも、「自分のペースに合わせて個別で学べる形式が合っていることに気づいた。」「わからないところはすぐに教えてもらえるので自分のペースでできてよかった。」「どの科目を勉強するかは基本的には自分で決めた。」「苦手なところからゆっくり教えてもらえたので良かった。」「勉強ができなくても教えてくれる人がいて、周りの目も気にならない。」「集団でなく個別、マンツーマンなので、まわりとの差がわからない。」「初めて友達と勉強を教えあうという経験をした。楽しかった」のように、周囲と比較されずに、自分のペースで、主体的に勉強に取り組めた様子が明らかになった。

不登校生徒たちが、これまで集団主義の中で、周囲のペースにあわせなければいけない、周囲との比較でストレスを受け続ける学習環境の中で、劣等感、自己否定につながり、「勉強＝苦痛なもの」と条件づけされてしまったことが推測された。キッズドアで、個人主義を知り、自己肯定感を回復しながら、自分が学びたいことを自分で学ぶアクティブ・ラーニング（能動的学習）の姿勢、勉強が本来的に楽しいものであるということを確認し、高校生活での自信につながっていったようである。

不登校生徒の支援には、個人主義的なやわらかい居場所である無料学習会がアクティブ・ラーニングの姿勢と自己肯定感の育成に有効と考えられた。

清水 栄司

千葉大学大学院医学研究院・認知行動生理学・教授
千葉大学医学部附属病院 認知行動療法センター長
千葉大学 子どものこころの発達教育研究センター長



団体概要

認定特定非営利活動法人キッズドア
〒104-0033 東京都中央区新川2-16-10 プライムアーバン新川2階
TEL: 03-5244-9990 FAX: 03-5244-9991
理事長 渡辺 由美子

不登校支援プロジェクトメンバー

渡辺 由美子	對馬 良美	東 操	石野 絢子
井上 晋二郎	菊地 和敏	草野 くる美	諏訪 弘恵
高岡 千晶	玉木 絵梨	藤井 翔大	吉永 菜々

沿革

2007年 1月	任意団体 キッズドアプロジェクト設立
2009年 10月	NPO 法人キッズドアとして法人格を取得
2010年 8月	低所得世帯のための無料高校受験対策講座「タダゼミ」を開始
2011年 4月	低所得世帯の高校生のための無料学習支援を開始
2011年 4月	東日本大震災の発災に伴い、東北での子ども支援活動を開始
2011年 6月	東北事務所設立
2015年 2月	東京事務所を兼ねるキッズドアラーニングラボ TOKYO 開設
2015年 4月	内閣府「子供の未来応援国民運動」に理事長渡辺が発起人として参加
2016年 5月	「全国子どもの貧困・教育支援団体協議会」副代表幹事
2016年 5月	日経ソーシャルイニシアチブ大賞 ファイナリストに選出
2016年 7月	「内閣府子供の貧困対策に関する有識者会議」構成員として参加
2017年 5月	「厚生労働省 生活困窮者自立支援及び生活保護部会」委員に就任
2018年 11月	公益財団法人社会貢献支援財団より、社会貢献者表彰
2021年 10月	東京都から「認定 NPO 法人」の認定交付